

第1学年 生活科の実践

1. 単元名「あきのおもちゃ だいしゅうごう」(全12時間)

2. 単元目標

・秋の校庭や公園で、集めた葉や木の実を使って、おもちゃ飾りを工夫してついたり、遊び方を工夫したりして、秋の遊びのおもしろさや自然のふしぎさに気付き、安全に気をつけて、みんなで遊びを楽しむ。

生活への関心・意欲・態度	体験や活動についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
・秋の身近な自然を使って、遊んだり、遊びに使うものをついたりすることに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	・秋の自然を利用して遊びを考えたり、遊びに使うものを自分なりに工夫してついたり、みんなが楽しく遊べるように遊びの約束やルールを考えたりしながら、みんなで楽しく遊んでいる。	・秋の自然を利用して遊んだり、遊びに使うものをついたりするおもしろさや自然のふしぎさ、秋の自然を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。

3. ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

全体の場で話す経験を重ねるため、帰りの会で日直が1日のできごとを話すことを4月から行ってきた。「話す聞く」という学習では、9月から毎週2人ずつスピーチ活動を行っている。聞き手は、感想を言い合うキャッチボールをしたり、話し手に手紙を書いたりしている。感想は、話し手が自信となるように肯定的な感想を述べるようにしている。聞き手にとっても、友達の良さやがんばりを認める、許容する心を育てることになるように取り組み、指導を行ってきた。話し手は、活動の最後に自分の言葉で感想をみんなに伝えている。スピーチ活動を通して、学級の友達に自分のことを知ってもらい、認めて受け止めてもらえる喜びや安心感から、全体の場で発言する自信へとつながっていきたい。

話し合いでは、相互指名を取り入れ始めた。皆が発言できるように思いやる気持ちと、自分の意見を友達の意見と比較して「つけたし」や「にている」、「そのほか」と考えながら聞くことが必要になる。話す時には、誰の意見に「つけたし」「にている」のか言うように意識させることで、より集中して聞けるようにさせたい。次の人を指名する際も、日頃あまり発言をしていない子や、その時間にまだ発言をしていない子がいれば先に指名する約束がある。それまでの話し合いで誰が発言したのか、誰が手を挙げているのかなど考えることで、話し合いに集中し、指名する際のちょっとした配慮が友達を思いやる気持ちを育てることにつながると考えている。まだ、前の人に付け足しをして、話し合いをテンポ良く続けていくことは難しいが注意深く聞く意識付けにはなっていると感じている。

生活科では、2年生にアサガオの種をもらったり、学校の中を案内してもらったりするところから学習が始まった。また、日常生活の中では、6年生に朝の仕度を手伝ってもらったり、給食の手伝いをしてもらったりして関わってきた。「もっといろいろと見てみたい」という思いから自分たちの学校探検が始まり、校内を見て調べて回った。自分が調べたいこと、見たことなどの思いをカードに書いてまとめることまでは、多くの児童が一生懸命取り組むことができた。その調べてきた事柄や思いを発表し友だちと共有し合うことはできたが、まだひびき合うところまでには至っていない。

4. 単元と指導について

本単元の前に、秋という季節を体で感じて、木の実を集めたり気に入った落ち葉を見つけたり楽しい活動を通して、自分と自然との関わりを実感してきた。また、より身近に自然を感じたり、自然にあるもので自分の生活を楽しんだりする中で、自然のふしぎやおもしろさを感じてきた。本単元は、自分たちで集めてきた葉や木の実な

ど秋の自然を利用して、おもちゃや飾りをつくり、友達と交流をしながら遊ぶ内容である。前単元の終わりから「秋のものをつかって何かをつくりたい、遊びたい」と児童は楽しみにしている。今までの生活科での学習では、あまり立ち止まって考えたり工夫したりする場が少なかった。本単元の学習を通して活動ありきにならずに、児童一人ひとりが思いや願いを持って、それを実現するためにグループや少人数での話し合いなどを行い、全体で意見を交換するなどひびき合いとなるようにしていきたい。

「何かをつくりたい」という児童の思いを形にしていこう。そのために、「どういったおもちゃが作れるのか」ということを調べ、情報を共有し、つくる選択肢を広げていく。児童のつくりたいという思いを土台に、つくるために見通しを持つことを大切にしながら進めていきたい。また、つくっていく中で、困り感やより良くしたいという意欲も出てくると思う。どうにかして改良したいという児童の思い、みんなに紹介したい！遊びたい！でもどうしたら良いかという思いを切実な問題として取り上げながら、つくりあげ、遊ぶまでの過程を大切にしていきたいと思う。

自分で拾ってきた木の実や落ち葉を使って「何かつくりたいな」という知的好奇心から始まり、どんなことができるのか、どのように楽しむか掘り下げていく必要がある。児童自らの「もっとこうしたい」という願いを、単元の終わりまで持てるように、自然のおもちゃの資料を手の届くところに置いておき、製作への関心を高め、活動の幅が広がるようにする。自分で資料などから調べ、探せなかった児童も、友達との話し合いを通して、「こんなものをつくりたいな」「こんなものがあるのか」という思いが持てるようになることが、1年生でのひびき合いと考える。またつくっていく課程の中で、困ったことや友達の良さをみつけ「なるほど！」「わたしも真似をしてみよう」など、こうした思いもまたひびき合いとなるだろう。友だちの作り方を真似したり、参考にしたりすることを認め、より良くしていくための手段としていけるようにしたい。そのために、生活科の振り返りカードを用意し、毎時間の活動を振り返り、友達と交流をもてた時には、個を認め、全体へと返していく指導を行っていく。

おもちゃや飾りを製作する課程の中で、秋の自然物の特徴を生かすことを意識させながら、児童の自由な発想を広げていきたい。同じような物をつくっている児童同士が自然と見せ合いや作業を確認し始めたら、似たものの同士をグループにして、情報交換ができるように場の設定を行いたい。また、単純に技能面で製作がなかなか進まない児童が出ないように、安全に配慮することや、道具の使い方を全体で指導をしつつ、一緒に作業するなどサポートをしていく。自分の思いを形にし、完成させたという達成感や喜びを感じさせるようにしたい。その思いが、次への「友達にも見せたい」「一緒に遊びたい」「遊ばせてあげたい」という切実な問題になると考えている。

本時では、自分のつくったおもちゃや飾りを「紹介したい」「一緒に遊びたい」「遊ばせてあげたい」という思いを実現させるために、どうしたら良いかを全体で話し合っていく。意見を出し合い、「その見せ合い方がいいね！」「なるほど！そうしよう！」など、自分と同じ思いや考え方、自分が考えつかなかった方法や意見を聴いて、自分達の思いを形にしていこうとする姿をひびき合いの姿としていきたい。話し合いの場で、こういったつぶやきがなくとも、その後自分のおもちゃや飾りをどう紹介していくか振り返った時に、友だちが発表した意見を参考としている姿もひびき合った姿としてみとっていきたい。そのために、毎時間のふりかえりカードでの児童の感想を大切にみると共に、自分の思いを文章で書くことが難しい児童でも、思いを表現できるようなふりかえりカードを用意したい。

5. 単元構想「あきのおもちゃだいしゅうごう」

単元目標

・秋の校庭や公園で、集めた葉や木の実を使って、おもちゃ飾りを工夫してつくり、遊び方を工夫したりして、秋の遊びのおもしろさや自然のふしぎさに気づき、安全に気をつけて、みんなで遊びを楽しむ。

生活科「たのしいいっぱい あきいっぱい」から

あきをさがそう

本場かな。校庭で確かめてみよう。

●こんなもの(木の実)みつけたんだけど、もう夏じゃないのかな。・もう秋なんだよ・校庭に(どんぐりが)落ちていた・落ち葉があった・いちようが落ちていた・〇〇にもたくさん落ちていたよ・葉っぱの色がかわっていた・朝とか寒くなった

●秋のものみつけられるかな
・どんぐりがひろえた、うれしかった。・落ち葉がみつけられた・ぜんぜんどんぐりが落ちていなかった・落ち葉がなかった・もっとたくさんひろいた・学校の外にもひろいにいきたい

こうえんであきをさがそう

●公園でみつけた秋は…

・校庭よりもどんぐりがひろえた。・赤や黄色のはっぱが落ちていた。・木の実をみつけたよ・種類のちがうどんぐりがあった。・虫がすくなくなっていた・きのこをみつけた・木にはっぱがついていた。・もっとうどんぐりをひろいたい・ちがう場所であきを見つけたい・なにかつくりたい

もういちど こうえんへいこう

●秋ともっとなかよく なってこよう

・もっとうどんぐりがひろえた・友達が言っていた〇〇があった!・前はなかった〇〇があった!・これ〇〇がつくれる!

みつけたあきをしょうかいしよう

・カエデ・イチヨウ・まつぼっくり・マテバシのどんぐり・クスギのどんぐり・シラカシのどんぐり・スダジイの実

絵を描いて、紹介カードをかく

とってきたものを貼って見せよう。

・そんなの見つけられなかった!・すごいね!・わたしもみつけた

●紹介して残った物はどしよう

・もう枯れているのは捨てよう・せっかく拾ったのにもったいない
・家に持ち帰る・何かつくりたい・トロをつくりたい・コマをつくりたい
・教科書に載っているものをつくりたい

どんなものがつくれるのかな

・どんぐりごま・ネックレス・モビール・ふえ・めいろ・けん玉
・おちばのぼろし・にんぎょう・どんぐりけつと・こすりだし・こま

見通しを持つために、必要な材料や道具を調べ、できるだけ自分で準備をさせる。
必要に応じて教師が用意しておく。

秋のおもちゃや飾りをつくらう

どんぐりグループ①
(キリ使用)・モビール・けん玉・こま

どんぐりグループ②
・どんぐりポン(ロケット)

どんぐりグループ③
(段ボール使用)
・めいろ

どんぐりグループ④
・どんぐりぞろえ
・どんぐりのおうち

はっぱとどんぐりグループ
・おめん・しおり
・おみこし・ネックレス

・どんぐりなどに穴を開けるときには固定し、キリは教師の目の届くところで使わせる。
・秋の模様をつけたり、どんぐりの形を変えたりなど工夫をさせる。

・秋の模様をつけたり、どんぐりの形を変えたりなど工夫をさせる。
・段ボールを切る際には、段ボールカッターなどは教師の目の届くところで使わせる。

・どんぐりに絵を描いたり、秋の装飾をつけさせたり工夫させる

・細かい作業になるので、どんぐりは固定させる。
・早く作り終わったら、秋の装飾をつける、色合いを工夫させる。

つくりながら…

「あの子のかいた絵いいな」「どうやったら早くコマはまわるのかな」「どうやって、迷路のところへつけたの」「ちょっと貼るからここもって」「〇〇のつくりか教えて」「これ、おもしろい」「ちょっとかして」「友達のおもちゃ、楽しそうだな。」「わたしも、あれ、作ってみたいな」

紹介しよう。みんなとあそぼう。

友達から聞いたことを自分のおもちゃなどに生かすよう声をかける。試し遊びの度に改良された場合には、賞賛し、試行錯誤して工夫することの楽しさを実感させる。

●「あそびたいかい」をするためには、どんなじゅんぴがひつようかな(本時)

「つくったものを並べる場所が必要」「遊ぶ場所をきめたいと思う」「遊び方がわからないから紙に書こう」「作り方を紙にかこう」「見るだけじゃつまらないから作りたい」「遊ぶおもちゃが一つでは足りないな。」「遊んだ人から感想がほしいから紙を置こう」「交代で見あうのがいいよ」「チームにわかれよう」

遊びの場の設定が初めての経験になるので、イメージしやすいように、必要に応じて教科書や本などの資料を用意し、見せるようにする。

●「あそびたいかい」をするためのじゅんぴをしよう

ネックレス おめん しおり
・紙、あきのものを用意して、自分でもつくれるようにしよう

こま
・誰がながくまわせるか競争しよう
・こまをもっと用意しよう

どんぐりのおうち
・どんぐりの人形であそべるように、人形をもっとつくりよう
・遊び方を紙に書こう

どんぐりポン おみこし
・とばす・歩く場所を決めよう
・まどが倒れないようにつくりよう
・1回に何回までとばせるか決めよう
・1回に何人が担ぐか決めよう

どんぐりめいろ そろえ
・遊び方を教える紙をかこう
・得点がわかるようにしよう
・机に置いて好きにあそべるようにしよう

●「しょうかい」をして、みんなであそぼう!

「みんなであそべて楽しかったな」「たくさん遊びがあって驚いた」「秋って、いろんな遊びができて楽しい」「冬も遊びをやりたい」「家でも兄弟につかってあげたい。遊ばせてあげたい。」

今後の生活単元「冬をたのしもう」「昔からの遊び」「もうすぐ2年生」への学びへと意欲をつなげていく。

6. 本時について

(1) 本時目標 「あそびたいかい」を楽しくおこなうために、どうすれば良いか話し合うことで、様々な準備や約束が必要なことに気付く。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
1 本時のめあてを確認する どうしたら「あそびたいかい」をみんながたのしくできるか はなしあおう 2 自分の考えを確認する 3 どのような準備や約束が必要なのか、全体で話し合う 遊び方やルール ・遊び方を書いた紙を置いておこう ・一人〇回とか決めた方がいい ・遊び方を決める ・持つ場所とか決める 作り方 ・作り方を書いた紙を置いておこう。 ・何枚もあるといいね ・一緒に作って教えてあげる 遊んだ人の感想 ・遊んだあとは手紙を書こう。 ・遊んだ感想をあとで発表しよう。 ・遊んだ後に口で言えればいいんじゃないかな その他 ・もっとおもちゃをつくらどうか ・大事にみてほしいな ・やさしくつかってほしいな ・全部をまわるようにしよう グループわけ ・コーナーを決めたらいいよ ・お店屋さんみたいに机をならべよう ・チームをつくらいたいと思う 4 本時の振り返りをする 5 今日の感想や気づいたことを発表する。次時への見通しを持つ。	○前時の想起をし、今日のめあてを確認することで、学習意欲が持てるようにする。 ○全体で話し合う前に、ペアで意見交流することで、自分の考えに自信を持てるようにする。 ○話し合いを意識させ、話し方や聴き方について適宜声をかける。 ○児童の考えを板書で整理していく ・声に出して反応があった場合、意識できるように声をかけ褒める。 ○進んで発言できない児童には、意図的指名を行う。できるだけ全体の意見をひろえるようにする。 ○「ふりかえりカード」を用意しておく。 ◆「あそびたいかい」をひらくために、自分の考えや意見を発言している。 【関】 ◆「あそびたいかい」をひらくために、いろいろな準備や決まりが必要であることに気づく。【思】

7. 実践を終えて

前の単元の「たのしさいっぱい、あきいっぱい」から本単元へ2つの単元を通して、子どもの思考や意欲が自然と流れていくように構成を考え、取り組んできた。

夏から季節が変わり、「秋」になったというところから、自然の移り変わりを外へ実際に見に行き、興味関心を高めてから、公園へ行った。最初は漠然と「秋」を探しに行き、2回目は「〇〇をしたい」と子どもの思いを大切に、はっきりとした目的を持って行った。その経験を発表したいという思いと、拾ってきた木の実などで何かを作りたい！という思いから、本単元につなげていった。子どもが調べてきた遊びやおもちゃの作り方などをもとに、いくつかつくりたい物を決めて、取り組んだ。自然と子ども同士の交流が生まれ、自発的に「こうしたい」「こんなふうになりたい」という思いが出てきた。

子ども達は「自分の作ったもので遊んでもらいたい」の他にも、「友達から感想をもらいたい(ほめられたい)」

「(作ってみて苦労したこと、工夫したことなど)感想を言いたい」「作り方も教えてあげたい」など交流したいことを持っていたので、どのように交流会(あそびたいかい)を行うかを考えていくことにした。

最初の段階では、おもちゃができれば、次の時間はすぐに「あそびたいかい」ができると考えている子がほとんどだった。これまでの学習でお店やさんを開くなどの経験が少ないため、自発的にどんな準備が必要かを生み出すのは難しかった。そこで試しに10分程度「あそびたいかい」と言って、自由にやらせてみた。すると、皆が一斉に他の場所へ移動し、遊びに来た子が勝手に遊ぶ、次から次へと友達が来てその場から離れられないなどの姿が見られた。その後困ったことを聞くと、ただ遊ぶだけでは、友達から確実に感想をもらうことができない、遊び終わると他の場所へ移動してしまう友達に自分の思いを伝えるのが難しい、遊びに行けなかったなど様々な課題が出た。この困った思いを解決することが、子どもたちの「したいあそびかい」であり、子ども達の切実な課題となると考え話し合った。

本時では、意見を一つずつ出していった。その際に、同じような意見をまとめて発表するようにしたが、「〇〇さんにつけたし」「〇〇さんと似ている」と言うものの、発表が前後してしまった。いろいろな意見を出していく中で、一つの意見について掘り下げたが、そうした話し合いは、次時に行った方が思考も整理されて良かった。本時は大まかに「あそびかい」を行うために、どういったポイントをおさえる必要があるのか最初に意見を全部出してから、全体を確認する程度で良かったと思う。

話し合いの方法の一つとして、子どもの声をはっきり聞こえずに反応が鈍くなってしまうこともあった。友達の意見に反応し、「いいと思う」「なるほど」などのひびき合いはあったので、全体に声が届くように改善していくと、更にひびき合いが深まると思う。子どもの話し合いの中でも、教師がもっと反応の仕方を示すようにすることで、全体に広がっていくことが分かった。今後は、こうした話し合いの方法についても指導をしていき、積極的な話し合いとともに、ひびき合いを深めていける授業を目指していきたい。